

単元名 なつと なかよし (おもしろい あそびが いっぱい)

1 学年

- |   |   |
|---|---|
| 小 | 中 |
| ① | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 |   |
| 5 |   |
| 6 |   |

背景

本単元の「おもしろいあそびがいっぱい」では、身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、自分たちの遊びや遊びに使う物を工夫してつくすることで、遊びの面白さとともに、自然の不思議さに気づき、友達と楽しみながら遊びを創り出すことができるようにすることをねらいとしている。

梅雨が明け、暑くなるにつれて、水遊びへの関心が高まってきている児童は、幼稚園や保育所での経験を生かし、いろいろな水遊びを楽しんだり、新たに遊びを考え出したりしながら思い思いの活動を展開していく。ここでは、身近にある材料（トレー・ペットボトル・マヨネーズの容器等）を利用して、水遊びのおもちゃを作る。遊ぶことは子どもにとって一番の楽しみであり、自然と人との触れ合いを深めることのできる大切な場でもある。水遊びやシャボン玉遊び、砂遊びなどを通して、夏が来たことに気づき、自分たちの生活を工夫することで、友達と仲良く、夏を楽しく過ごすことができると考える。

ここでは、人とのつながりが深い「水」を使った遊びに着目し、生活科の「なつとなかよし」の単元を導入とし、次学年以降の理科の学習の素地となるように、水遊びを通して印旛沼の環境に目を向けるようにしていきたい。

ねらい

- 夏の自然を使った遊びを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いている。 (知識・技能)
- 夏の自然や身近にある物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくっている。 (思考力・判断力・表現力)
- 夏の自然遊びに関心を持ち、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとしている。 (主態度)

2 教科・領域

- |    |    |
|----|----|
| 国語 | 生活 |
| 社会 | 家庭 |
| 算数 | 図工 |
| 数学 | 道徳 |
| 理科 | 総合 |

系統



3 見方や考え方

- 多様性
- 関連性
- 空間的広がり
- 時間的変化

資料・準備・関連機関等

- |    |  |
|----|--|
| 準備 | ・笹の葉（大きめなもの）<br>・水を入れる容器   |
| 資料 | ・「いんば沼ってどんな沼」印旛沼健全化会議事務局、平成17年<br>・「いんば沼～むかし、いま、そしてあした」財団法人印旛沼環境基金、株式会社弘文社、平成20年 |

4 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力
- 判断力
- 表現力
- 主態度

指導計画

5 指導時間

- ・準備 1時間
- ・授業時間 1時間

時配	学習内容
1 (本時)	夏において、昔の自然を使った遊びについて知り、昔から人と自然が仲良しであったことや今の自分たちの生活においても工夫して楽しく遊べることに気付くようにする。
2～3	身の回りの材料を工夫しながら遊び道具を作り、作ったもので競争したり、友達と一緒に遊んだりする。

**本時でねらう見方や考え方**

夏の自然を使ったさまざまな遊びを通して、昔の自然遊びについて知り、自然や自分たちの生活の様子について考え、夏の自然遊びに関心をもち、みんなで楽しみながら遊ぼうとしている。

本時の指導 1 / 3

- (1) 目標 ・昔の自然遊びについて知り、自然や自分たちの生活の様子について考えることができる。  
 (思考力・判断力・表現力)  
 ・今と昔の夏の自然遊びに関心をもち、みんなで楽しみながら遊ぼうとしている。  
 (主態度)

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	資料
見出す	5	1 これまでの経験をもとに、夏にどんな遊びをしたことがあるのか伝え合う。 ・プールに行き泳いだよ。 ・庭で水遊びをしたよ。 ・虫取りをしたよ。	・家庭や幼稚園、保育所での経験を振り返り、ここでは水を使った遊びについて目を向けさせたい。	
調べる	10	2 昔の子どもたちは、どんな遊びをしていたのかを話し合う。 ・近くにある川や沼で遊んでいた。 ・笹舟を作って、川に流していた。 ・川でメダカやザリガニ釣りをしていた。 ・田んぼでどじょうを捕まえていた。 ・竹の水鉄砲で遊んでいた。	・プールが学校にしかなかった当時の子どもたちは、何をして遊んでいたのかを写真等で提示したり、事前に年配の方から聞き取ったことをもとに話し合う。 ☆昔の自然遊びについて知り、自然や自分たちの生活の様子について考えることができる。 <思考力・判断力・表現力>	昔の水遊びをしている写真 (資料参照)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     みずあそびだいさくせん！                      ～むかしのみずあそびをたのしもう～                 </div>				
深める	20	3 笹舟の作り方を知り、実際に作って水に浮かばせる。 【笹舟のつくりかた】 (参照:資料等(1)資料及び使い方)	・自然にあるものを材料として、笹舟を体験することにより、昔の遊びのよさに気付くようにする。 ・笹の葉で手を切らないように気をつけながら作る。 ・容器に水を溜め、実際に浮かばせたり、風をを起こして前進させたりして遊べるようにする。	「笹舟の作り方」の掲示物  水を溜める容器
まとめあげる	7	4 笹舟を作ったり、水に浮かばせて気付いたことを発表し合う。 ・笹の葉が浮かんで、驚いたよ。 ・風を当てると、前に進んだよ。 ・笹舟の中に水が入らないようにするといいよ。	・笹の葉が水に浮いたり、風で動いたりする自然の不思議さにも気付かせたい。 ・今も昔も、自然や身近にある物を使って工夫すれば、楽しく水遊びができることを伝える。 ☆昔の夏の自然遊びに関心をもち、みんなで楽しみながら遊ぼうとしている。 <主態度>	
	3	5 本時の活動を振り返り、次時への活動を確認する。	・本時の活動を振り返り、次時への見通しがもてるようにする。	

(3) 板書計画

みずあそびだいさくせん！  
 ～むかしのみずあそびをたのしもう～

いま	むかし	【ささぶねのつくりかた】 ①はしをすこしおる。 ②おったところに、きりこみを2ついれる。 ③3つにわかれたところのりようはじをもち、かたほうのわのなかにおす。 ④はんたいがわのはも、おなじようにする。 ⑤みずをうかべてみよう！
----	-----	--

いま

- ・プール
- ・みずでっぽう
- ・むしとり

むかし

- ・ささぶね
- ・竹のみずでっぽう
- ・ぬまや川でのあそび

いまもむかしも、しぜんやみぢかにあるものでたのしくあそぶことができる。

## 資料等

### (1) 資料及び使い方

#### 【昔の水遊びをしている写真】 (この場合の“昔”とは1940年代を指しています)



撮影 川島俊彦氏  
場所 印旛沼

#### 【笹舟の作り方】

- ① 笹の葉（大きめなもの）を用意する。
- ② 端の部分を3～4 cmほど折る。
- ③ 折った部分を手で3つに裂いて、切り込みが2つ入るようになる。
- ④ 3つに分かれた部分の両端を内側に寄せて、片方の輪の中に、もう片方を通す。
- ⑤ もう片方の端も同じように折り、切って交差させたら完成。

### (2) 発展

- 夏のみならず、他の季節の遊び（どんぐりごま、まつぼっくりけん玉、竹馬等）においても、今と昔の遊びを比べることで、自然や自分たちの生活の様子について考え、自然と人との関わりの深さに気付かせ、深い学びへと導いていきたい。
- 水遊びにおいて、事前に雨水などを溜めておいたり、遊びに使った水を草木にあげたりするなど、環境面にも配慮していけるとよい。

### (3) 授業のポイント

- 今と昔の自然遊びを比べる際は、事前に身近な人（年配者など）から情報収集したり、地域人材を活用したりして、当時の様子を紹介できるとよい。

### (4) 留意点

- ※「昔の水遊びをしている写真」は、左記の資料を拡大コピーして使用してください。
- ※水深の深いところや段差があるところは危険なため、子どものみで河川付近で遊ぶことは禁止されていることを、事後指導として児童に周知してください。
- ※地域や学校・学級の実態に応じて、本時の内容を変更させても構いません。